

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	L i k e P o t 鳥 栖		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		2025年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動部屋が4つに分かれており、それぞれで活動することが出来る。	部屋分けをしていることで、子どもたちに分かりやすく、活動時間や内容を細かく分けて活動が出来るようになっている。小集団活動や個別対応もできる。	児童の気持ちで一人になりたい時や、小集団への誘導が促しやすく細かいニーズにも対応ができる。部屋にはパーテーションが設置できるようになるので外部が気にならない工夫も出来ている。
2	個別課題を準備し、児童の目標に向かっての取り組みが出来ている。	モニタリングや日々保護者との関りの中で聞き取った目標や課題を個別に取り組んでいる。	自立に向け生活に必要な掃除、片付け等も日々活動の中で行っている。個別課題の時間を設けてそれぞれの目標に向かって日々取り組んで評価をしている。
3	学校に通えなくなった時など午前中からも受け入れを行っている。	朝からの利用も受け入れている。	本人の気持ちを聞き取りながら本児のペースに合わせ時には休憩の場所として等柔軟に支援を提供している。保護者、学校と連携を取りながら通学にむけ支援を進めていく。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	長期休みなど室内活動だけでは物足りない時がある。	外出企画を予定したり、活動に飽きないように予定を立てているが、夏などは気温が高いため外出が出来なくなる。	熱中症対策を行いながら涼しい場所を探して活動を行うようにしている。
2	1人で余暇時間を過ごせない児童に対して対応できるものが少ない。	コミュニケーションを取りながら興味のあるものを見つけているが、気持ちの波によっては難しい時がある。	バリエーションを増やし、どのスタッフでも対応できるようにして、将来に向けた支援を行う。
3			